

令和4年度 いのちの授業 事例集（特別支援学校）【生活・生活単元】

掲載数

24

管轄	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 横須賀市立	中1	生活・生活単元	生物育成 生き物が生きて死ぬ連鎖の観察実験する。	蚕の産卵から成虫までの育成連鎖のなかで、生育観察と飼育方法の試行改善を繰り返す。（卵から成虫に育て産卵させ、その卵を冷凍保存する。卵を解凍して成虫に育てる。この繰り返し。）そのなかで卵から幼虫が生まれる喜びや、さなぎでの死の意味について自ずと深く考えるようになる。蚕の飼育を通してリアルな生と死の経験を繰り返す。また、育てた蚕の繭から糸をとり、機織りし、着物を創って着る「創造と表現のよるこび」と「生命の不思議」について他学部他学年生徒と協働学習する。	蚕の卵 桑の葉 糸くり機 糸より機 機織り機 機織り道具 和裁用具
2 藤沢市立	小3	生活・生活単元	防災教育 「安全に避難しよう」	常に見通しを持った支援を心がけている特別支援学校において、有事の際の避難は困難が予想される。 そこで、避難経路等、避難訓練時のみではなく、授業においても防災教育の一環として、避難方法、経路を確認しておくことで、万が一の時に落ち着いて行動できるように授業で確認した。	映像
3 神奈川県立	小2	生活・生活単元	ミニトマトを育てよう	6月に苗を植えて、生活や朝の時間にじょうろを使って水やりをし、野菜の成長を観察した。苗が大きくなった時には、高等部の農作業班に協力してもらい、ポットから畑への植え替えを行った。収穫した野菜は各家庭に持ち帰り、自分で育てたものを食べる経験を行った。連絡帳を通して「おいしくいただきました」と報告もあった。	使用教材 苗 じょうろ トマトの歌の動画「トン トンとまとちゃん」 iPad
4 神奈川県立	中1	生活・生活単元	防災教育 「地震がおきたら？」	災害時の写真を見て、家屋や車が壊れている様子を具体的な言葉や「火」や「水」「消防車」などの単語で伝える生徒が多く、日常とは異なる災害時の光景に驚いている様子があった。ベニヤ板を利用した地震の揺れ体験では、全員がしゃがんだ状態で地面が揺れる感覚を体験することができた。防災学習を重ねるごとに、「家に帰れないときはどこで生活するのか？」の質問に「体育館(学校)」と答える生徒が増えた。寝袋体験やダンボールベッド作り、防災食作り等の活動を通して、避難所生活の一部を体験した。	・ 中学部1年生で実施 ・ 参考資料 鶴見川流域ネットワーク ワーキング 『教えてツルさんバクちゃんいざというときどうするの?』
5 神奈川県立	高1	生活・生活単元	防災教育 「防災備蓄食料を試食しよう」	大きな災害時、学校や地域の避難所で防災備蓄食料（アルファ化米）を食べることが考えられる。 特別支援学校生徒は偏食があったり、食べた経験がない生徒が多かったため、実際に自分たちで調理（お湯を注いで所定の時間まで待つ）して食べてみることにした。お湯の扱いに慣れていない生徒や乾燥剤を取り忘れそうになった生徒がいたが、アルファ化米は通常の米と遜色なく、完食している生徒が多かった。	○消費期限が近くなった備蓄食料を活用。 ○事前学習で避難所生活について確認。 <参考資料> じぶん防災ハンドブック

6	神奈川県立	中3	生活・生活単元	防災教育 「大地震から身を守る」	大地震の際に身を守る術を学ぶ。 ・地震や火事の動画を視聴して災害時の様子を知る。 ・シェイクアウト訓練を行い、大地震の際の身の守り方を実践する。 ・火災の際に煙から身を守るよう、姿勢を低くして進む練習を行った。 4回に分けて授業を行ったが、毎回生徒たちは真剣に取り組んでいた。	○動画を使用したり、防災頭巾を被ったりして実際の場面をイメージしやすいように取り組んだ。
7	神奈川県立	高1	生活・生活単元	いのちの安全教育	自他の命を大切にすることを学習するために「自分のことを知ろう」という内容で行った。自分の好きなところ、好きなこと、苦手なことを考えた。頑張っている自分を認め、自分自身に表彰状を書いた。また、「相手の気持ちを考えよう」ということで、友達の良いところを見つけて、★型の紙に書き、クリスマスツリーに飾った。振り返りでは、2学期に頑張ったことを皆の前で発表し、メダルをもらうことで、自己肯定感を持ちにくい生徒や褒められることが苦手な生徒も「自分をみとめてあげていいんだよ」という気持ちを持つことができた。	表彰状、クリスマスツリー、メダルなどを教材として使用することで、イメージが持ちやすくなるように工夫した。
8	神奈川県立	小6	生活・生活単元	防災教育 「自然災害からいのちを守る」	災害の種類や災害時の行動について学習をした後に、その実践として校外学習で防災センターに行き、地震体験や暴風体験、消火体験をした。初めて経験する大きな揺れや雨風の強さに、児童たちはみな驚いている様子だった。この学習活動を通して、災害時に実際どのようなことが自分の身に起こるのか、体験的に学ぶことができた。	肢体不自由教育部門小学部5・6年の複式学級にて行った。
9	神奈川県立	高2	生活・生活単元	メダカの飼育	1学期の期間中、各クラスでメダカの飼育を行った。日々のエサやりや水質管理等を生徒が分担して行うことにより、かけがえのない命についての体験的な学習を実施することができた。メダカが死んでしまったとき、生徒たちが埋葬までのお世話も行った。一連の体験は「いのち」について深く学ぶ良い機会となった。	
10	神奈川県立	高1	生活・生活単元	防災教育	災害にはどのようなものがあるか(地震、津波、など)、災害時の身の守り方や、非難するときに気をつけることなどについて考えた。また、地震で電気やガス、水道が使えないとどうなるか、同時に使えなくなるとどうなるかなどについて予想し、防災グッズの内容を確認した。非難する時に何を持っていくかや、非常食の作り方についても意見が多く出て、関心の高さがうかがえた。	
11	神奈川県立	高3	生活・生活単元	防災学習	災害時はガス、電気、水が使えない等のことを川の氾濫により避難をした実体験を交えながら伝えた。食事に関して、備蓄食料(防災食)はガス、電気が使えない状態でも食べられる工夫がされていることを伝え、調理過程を見せた。また1日分の水分を実際に背負わせ、これだけの重さの量がないと生きていけないという話を交えて体験させた。その他非常食を喫食し、美味しさに驚く生徒もいた。災害時の食生活についての具体的な話を聞き、体験を経て、食べ物がある有難さ、最終的には命の大切さについて学習することができた。	講師の一人として栄養教諭が非常食の調理方法などを講義した。

12	神奈川県立	中3	生活・生活単元	誕生と成長	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃん人形を抱く、赤ちゃんの画像を見るなどの活動を通し、自分たちが産まれたばかりのころについて体験的に学ぶ。 ・中学3年生までの成長を振り返る。 ・高等部や就労先について知り、これからの生活や自分たちの成長について考える。 	
13	神奈川県立	中1	生活・生活単元	性教育	「人との距離感」の単元の中で、プライベートゾーンをはじめとした、自分の体のことについて学習を行った。一部男女に分かれ、第二次性徴に伴う体の変化や自分の「体」を大事にすること等を学習した。	
14	神奈川県立	小5	生活・生活単元	防災教育（地震）	地域の防災施設で地震体験等を行ったり、避難訓練での起震車体験をすることを通したりして、身を守る姿勢や命を守ることの大切さを学習した。	防災体験施設等
15	神奈川県立	小2	生活・生活単元	お誕生日会をしよう	自分や友だちの誕生日を知り、それを祝うことで、命の大切さを考えるきっかけとするために、児童の誕生日がある月ごとに実施している。誕生日の児童が主役になり（ケーキ型の帽子をかぶる）、パネルシアターを見たり、プレゼントカードを受け取ったり、その児童が好きな遊びをみんなで楽しんだりして、楽しい時間となるよう工夫している。	授業者は本校教員(担任) (教材) パネルシアター、ケーキ型の帽子、手作りの誕生日カード
16	神奈川県立	高1	生活・生活単元	福祉について考えよう「高齢者体験」	相模原市社会福祉協議会より「高齢者疑似体験キット」を借りて体験を行った。視野の狭くなるゴーグルや音の聞こえにくくなるイヤーマフ、関節を固定するサポーターや手足に重りをつけて自分の名前を書いたり、階段の上り下りをした。体験をして「枠の中に字が書けない」「階段が怖い」といった感想をもつ生徒が多かった。体験をすることで、高齢者の特徴である目が見えにくいことや耳が遠くなることなどをより深く理解することができた。最後には「高齢者には優しくする」という感想を言えた生徒もいた。	授業者は本校教員 (教材) 社会福祉協議会「高齢者疑似体験キット」
17	神奈川県立	小2	生活・生活単元	誕生会	児童の誕生日後にクラスで誕生会を実施した。「たんじょうびには」のパネルシアター、ケーキの飾り付け、誕生日カードをもらうという内容で行った。パネルシアターでは、年の数だけろうそくを立てたり、該当児童の好きなキャラクターや好きな食べ物をそれぞれ用いることで、児童が自分の誕生日を意識することができた。また、クラスの友だちと祝いあうことで喜びを共有することができた。	パネルシアター 「たんじょうびには」
18	神奈川県立	小複合	生活・生活単元	「さつまいもを育てよう」栽培・お話	5月にさつまいもの苗を植え、栽培・収穫を行った。夏野菜などとは違い、いも自体は土の中のため成長具合が見えないので、「さつまのおいも」などのお話し遊びをとおして「いもは土の中で頑張っていて大きくなっている」ことを期待して栽培した。収穫前に大きないもを引っ張る練習も行い、期待をもって収穫に挑むことで、大きく成長したさつまいもを見て喜んだり、驚いたりする様子が見られた。自分たちが水やりなどを行ったことで、さつまいもが大きく美味しく成長したことへの理解へつながった。	5月苗植え 10月収穫 「さつまのおいも」絵本

19	神奈川県立	中複合	生活・生活単元	給食ができるまで	<p>本校の給食は、栄養士、調理員、配膳ボランティア、学部外の教職員など、多くの人の手を介して提供をされている。</p> <p>給食が作られる映像を見たり、実際に使われている大きな調理道具に触れたりして、給食がどのように作られているのかを学んだ。そして、当日の給食が配膳されている様子をリモートで見学し、盛り付けられた給食を、リモートをつないだまま栄養士に教室に持ってきてもらった。給食を食べた後、コロッケがどのように作られるのかを学んだ。生徒たちが土嚢で育てているじゃがいもの様子を観察したり、皮をむいたり切ったりする様子を目の前で見て、その形状が変化して行くごとに触って観察したり、ふかしたじゃがいもをジップロックに入れて触ったりして学習した。どの生徒も香りや感触を感じて表現することができ、また当日に食べたコロッケと学習内容をつなげて発言できた生徒もいた。</p>	本校の栄養士と給食に関わる分掌の総括教諭がゲストティーチャーとして授業を行なった。今後、じゃがいもの収穫の際に、この授業とつなげて学習を進める予定である。
20	神奈川県立	高複合	生活・生活単元	植物を育てる	<p>植物（ケイトウ、アスター、トマト、サツマイモ）の種や苗をプランターや学級菜園に植え、開花や収穫までの観察、世話、記録などを行った。生命の誕生、成長、開花、結実までの過程を知り、水やりなどの係を分担して行い、植物を育てることの喜びや世話の大切さなどを学習した。</p>	種 苗 プランター 畑 記録用タブレット 端末 観察記録用紙
21	神奈川県立	高3	生活・生活単元	「いのちの授業」 命の誕生 デートDV	<p>2年時では「デートDV」の授業で相手を思いやることを学習している。今回は3時間計画で授業を行った。一人ひとりがかけがえのない存在であることを生命の誕生の動画を見て実感した。さらには、受精の動画を見たり、人体模型を使用したりして今ここにあることは奇跡ともいえることを学んだ。また、デートDV診断の項目の自己診断を行い、様々な場面での行動について考えた。性別に関係なく一人の人間として個人を尊重することを確認し、相談機関を知らせた。最終日には学年の男で女ペアとなり疑似デート体験をした。</p>	高知3年生を2グループに分けての授業展開とした。 歌「いのちの歌」 デートDVの啓発サイト「ノットアローン」
22	神奈川県立	高3	生活・生活単元	「いのちの授業」 ・命の大切さを知る。 ・助けを呼ぶ	<p>3時間計画で授業展開した。絵本「わたしのはなし」を大型テレビで見て、男女にはプライベートゾーンがあることを知る。それぞれの生徒の顔が貼られた体のイラストに自分のプライベートゾーンを塗らせ、人に見せたり、触らせたりしてはいけないことを知る。教員が不審者に扮し、体に触られたり、車に乗せられそうになった時に助けを求める練習を行った。最終日には学年の男女ペアとなり疑似デート体験を行い、ダンス、ゲーム、喫茶などを楽しんだ。</p>	絵本「わたしのはなし」
23	神奈川県立	高2	生活・生活単元	赤ちゃんの成長と子育て	<p>子どもの成長の過程を知ることによって子育てにおける親の役割や責任について考えるというねらいを持って取り組んだ。昨年度、産休に入る教員のおなかの様子を観察させてもらい、今年度その教員が復帰してからの身体の変化や赤ちゃんの様子やその子育てなどを学習する内容となっている。身近な教員の体験話であることや、写真などの視覚的教材を使用したことで、生徒は興味関心を持って参加していた。</p>	赤ちゃん人形
24	神奈川県立	高1	生活・生活単元	いろいろな心、 いろいろな身体	<p>カミングアウトしている有名人の例を聞き、性的少数者への理解を深めることや、告白されたら、男性同士のカップルが子どもを育てたら自分はどのように感じるかを考えるなどのねらいをもって取り組んだ。LGBTQやレインボーフラッグなどの単語理解が難しい様子もあったが、有名人の話や映像作品を見聞きすることでアンケートには、積極的・肯定的な回答が多く見られた。</p>	夏季公開人権研修